小樽間税会　会長賞

小樽市立菁園中学校　3年
佐藤　樹佑

税金について

正直言って、僕は税金が大嫌いだった。だってお小遣いでコンビニに行って、ポテチやジュースを買おうとするだけで、消費税のせいで手持ちのお金が足りなくなることがよくあるからだ「何で勝手にお金を取られなきゃいけなんだよ」といつもイライラしていたし、税金なんてこの世から消えればいいのにと本気で思っていた。そんな私が税金について考え直すことになったのは、学校で新しい教科書が配られたときだ。配られてすぐ、暇つぶしに教科書の裏側を何気なく見てみたら、そこに変な文章が書いてあった。「この教科書は、国民の税金によって無償で支給されています」とい内容だった。それを見たとき、僕はめちゃくちゃびっくりした。今まで、新しい学年になったら教科書がもらえるのは当たり前だと思っていた。でも、実はタダじゃなくて、どこかの大人たちが払ってくれた税金で買ってもらっていたのだ。もし税金がなくて、教科書も学校の机もイスも、エアコンの電気代も全部自分の家で払わなきゃいけないとしたら、一体いくらかかるんだろう。私の家だけじゃ絶対に払いきれないと思う。そう考えたら、僕が毎日普通に学校に来て、友達と喋ったり授業を受けたりできているのは、税金のおかげなんだなと初実感がわいてきました。税金についてもっと興味がわいてきて気になってスマホで少し調べてみたら、中学生一人につき、年間で約百万円もの税金が使われているらしくて、百万円なんて見たこともない大金だから、本当にびっくりしました。僕はまだ中学生だし、バイトもできないから税金をほとんど払っていない。それなのに、日本のどこかで誰かが汗を流して働いて納めてくれたお金が、巡り巡って僕たちのために使われているのだ。これまでは、税金って国に無理やり「取られるもの」だと思って損した気分になっていた。だけどそれは間違いだった。税金はみんなが安全に不自由なく暮らすために出し合う「みんなの貯金箱みたいなものなんだと思う。そして僕たち中学生は、その貯金によって一番守られている存在なのだと気づいた

税金の仕組みを知ったからには、これからは授業中にだらけたり、おしゃべりを控えめにしようと思う。せっかくみんなのお金で勉強させてもらっているのだから、学校生活をちゃんと楽しまなきゃ損だ。そして僕も大人になったら、ちゃんと仕事をして税金を払い、次の世代の子どもたちに教科書をプレゼントできるような、立派な大人になりたい。